

**第 12 回 日中省エネルギー・環境総合フォーラム**  
**日中長期貿易分科会**  
**雄安新区 市民サービスセンター視察記録**

◆日時:2018 年 11 月 26 日(月)15:00-15:30

◆場所:雄安新区 市民サービスセンター

◆視察参加者:

日本側:第 12 回日中省エネルギー・環境総合フォーラム LT(日中長期貿易)分科会、  
自動車分科会等の視察希望者 (杉田定大 LT 事務局長はじめ 30 名)

中国側:高華 商務部対外貿易司一等秘書官、陳逸景 商務部アジア司員

白雪峰 機電輸出入商会国際連絡部主任、Ms 林楠、Ms 艾思

◆説明者:朱忠文 雄安新区改革發展局副局長 他

◆説明内容 << 雄安新区の概要 >>:

(冒頭、巨大画面による3D映像・英語解説を鑑賞、加えて、以下の説明を受けつつ  
展示パネル等視察。)

## 1. 歴史

雄安新区の建設は「国家千年の大計」である。習近平出席が自ら構想・提起している。具体的には、2014 年に「京津冀協同一体化計画」が発表され、2016 年に河北省の「雄安」が選定されて「雄安新区」と名付けられた。2017 年に国務院が雄安新区の建設に関する通知を発表し、さらに 2018 年に「河北雄安新区計画要綱」が発表された。「大都市病(過度の人口集中による環境悪化等)」に対処するため、雄安新区の建設が提起されたものである。

## 2. 地理的優位性

雄安新区は北京と天津から105km の距離にあり、高速鉄道では40分で北京、天津に至る。また、2022 年の冬季オリンピックの開催地とともに、河北省の「両翼」をなす。白洋淀に囲まれ、元来の生態環境は優れている。更に、地震帯になく地理的な安定性を有している。今後の開発の余地は相当大きい。これらの要素により、雄安新区は新しい都市の建設に必要なものを全て備えていると言える。

### 3. 目標

雄安新区は「グリーン・協調・イノベーション・開放」という位置付けのもとで建設されている。本世紀の半ばまでに質とレベルの高い社会主義近代化の大都市を建設することが雄安新区の長期目標である。

### 4. 発展のレイアウト

雄安新区の面積は 1771 km<sup>2</sup>で、緑(森林)と青(湖)の面積は総面積の7割に達するよう努力する。都市のレイアウトは「1 主 5 補」(一つのメイン生活区と五つのサブエリア)で構成される。五つのサブエリアは雄県、容県、安新県、寨裏、昝崗である。昝崗は交通中枢となることが想定されている。

洪水対策や防震は、200 年に 1 度の洪水と震度8の地震に耐える強度に基づき、堤防などが造られている。また、雄安新区のビルの高さは 45m 以下に制限されている。

○雄安新区は歴史・文化財の保護にも力を入れている。

○生態環境保護に当たっては、白洋淀の生態修復に取り組んでいる。6~6.5m の水位を維持し、水質はⅢ~Ⅳ類レベルに達するよう努力する。一方で、大規模な植林活動も展開されており、これまで既に千本以上の木が植えられ、森林率は 11%から 40%に向上させる。

○地下空間を合理的に活用する。地上空間は住民区で、居住快適性を重視する。一方で地下スペースについては、例えば駐車場やショッピングセンター、変電所などを多く計画し、その活性化を図りたい。

○スマートシティを建設する。雄安新区は、全情報をカバーする世界一流のデジタル都市となることが期待されている。ハイエンド・ハイテク産業を多く導入し、人間本位を堅持し、スマート・インフラ施設の建設を推進する。

### 5. その他

雄安新区市民サービスセンターは、雄安新区の初の建築物である。敷地面積 24.24ha で、区内では無人カーが走行している。全ての植樹に「QR コード」がつけられ、スマートフォンでスキャンすれば、樹齢や植樹者名を知ることができる。

同センター近辺の駐車場は EV 車用のもので、各駐車スペースには充電設備が設置されている。

区内の建物は全てプレハブ工法で造られ、工期は 118 日と短く、廃材も少ない。

(日中経済協会北京事務所 周麗穎まとめ)



雄安新区・白洋淀エリア視察の様子



油膜による水質汚染が確認された白洋淀の湖面



雄安新区にて走行試験を行う自動運転試験車両



雄安新区・市民センター視察の様子

